

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 実施機関名：上越教育大学 連携機関名：上越市教育委員会
コラボ研修プログラム	事業名： 教師間の協働によるインクルーシブな授業づくり研修
支援事業報告書	研修等名：【NITS・上越教育大学教職大学院コラボ研修】 教師間の協働によるインクルーシブな授業づくり研修 特別支援教育担当者資質向上研修・養成
	開催日時：令和5年5月1日(月)～令和6年2月5日(月) 開催場所：上越教育大学(新潟県上越市山屋敷町1番地) 参加人数：総数923人(内訳：教員816人(小学校635人、中学校130人、高等学校8人、 特別支援学校40人、義務教育学校3人)、大学院生63人、指導主事36人、その他8人)

**内容：**

令和2年度から実施してきた、各教科等と通級による指導との関連を図る教員間連携力育成のための研修の成果と課題を踏まえ、令和5年度はこれまで研修を受講し、この研修によって得た学びを活かして教師間で、どのように協働し、自立活動と教科等の授業改善を図ったかについて話題提供していただいた。また、自立活動の時間における指導と各教科等の指導との関連を図る実践を蓄積している特別支援学校における授業づくりの知見や関連機関との協働についての実践例を取り上げ、教科等におけるインクルーシブな授業づくりのポイントを学ぶ内容とした。なお、本研修は新潟県教育委員会の後援を受けて実施した。以下、実施した研修会のテーマを示した。

- 第1回5月1日(月) 小・中・高校における自立活動の指導の意義
- 第2回7月28日(金) 通級による指導と教科の授業との連携①
- 第3回8月8日(火) 交流及び共同学習における教師間の連携
- 第4回8月18日(金) 情緒的な困難を抱える子どもたちの理解と支援－子ども虐待を中心に－
- 第5回9月19日(火) 通級による指導と教科の授業との連携②
- 第6回10月26日(木) 教科の学びを支える通級指導教室における指導 (ICTの活用)
- 第7回11月10日(金) 特別支援教育の校内支援体制の構築と関係機関との連携
- 第8回12月13日(水) 通級による指導と教科の授業との連携③
- 第9回1月30日(火) 子どもの実態把握と授業における指導・支援との関連
- 第10回2月5日(月) インクルーシブな授業づくりを考える意見交流会

**成果：参加者からの内容や実施方法に関する肯定的な評価が得られた。**

第1回から第10回の研修会事後アンケート結果

●選択肢によるアンケート結果

- ①「自身の経験や実践と研修内容を結び付けることはあったか(5 たくさんあった～1 全くなかった 5件法)」について、肯定的な評価が全体の96%であった。
- ②「研修内容は今後の指導に役立ったか(5 非常にそう思う～1 全くそう思わないない 5件法)」について、肯定的な評価が99%であった。

●自由記述による感想、意見、要望等(一部)

- ①自立活動は特別支援学級担任だけでなく、交流学級担任、学校全体で行い連携することの大切さを理解できました。そのためには、校内研修で自立活動とは何か、どう指導していくのか、どのような教育効果が得られるのかといった基礎的な知識理解の共有が大切だと感じました。
- ②自立活動 6 区分の視点で子どもの実態を見取っていくことの重要性を改めて強く学びました。6 区分は指導内容ではなく、子どもの実態をまんべんなく見取るための窓口的なものであり、どこかの観点だけに情報が偏る、この子は言語障害だからコミュニケーションだけを見る、指導するではないからこそ、協働にて情報を集める、実態を捉える、目標を決め指導・支援内容を決めることが大切だとも学びました。また、講師先生が紹介して下さった自立活動の実践例にあったように、自分のよさはもちろん、こんなところに困っているという自己開示や改善策を考える活動を通し、否定されない経験やこうすれば大丈夫といった安心をもつことができるようになることが素敵だと思い、学習面も大事ですがその土台となる心や気持ちにアプローチしていくことの大切さも学びました。

- ③子どもの姿を様々なところから捉え、通級でどのような力を育てていくかを考えることがとても重要であると改めて感じた。そのような姿を捉え、通級でどのような力をつけていくと子どもがよりよく学校生活を送れるのかということを考えていくことが大切であると思った。子どもの行動の背景にどのような思いが含まれているのか、その背景に寄り添うことの大切さを実際の子どもの姿を聞くことで強く感じた。通級担任と通常学級担任の連携が子どもの様子が見えることにもつながるし、子どもを認め、褒めるということができると繋がる感じた。
- ④事例の話が、担任している子の様子とびたりと当てはまることが多くあり、とても共感できました。また、「急に子どもは伸びない」「バトンは次の先生がつないでくれる」などの言葉もすごく励まされました。校内で支援体制や話せる環境はあるのですが、「大丈夫」といったメッセージをくださる存在は本当に貴重です。
- ⑤子どもの力を伸ばすだけでなく、連携により教師間で学び合いで双方にとって win-win の素晴らしい実践でした。子どもの姿を的確に見取り、通級での自立活動の指導を組み立てていることがよく分かりました。困った時にすぐ頼りになる通級担当が校内にいる自校通級っていいなと毎回思います。連携の大切さとともに難しさを感じている毎日です。具体的な連携方法、それを子どもの成長に活かすためのポイント等をお聞きでき、大変勉強になりました。
- ⑥小中のお二人の実践を聞かせていただけて、本当に良かったです。特に、私が中学校の通級指導教室で、正負の計算の指導で悩んでいたのも、講師先生の実践を早速参考にさせていただきたいと思います。サウルグリフも初めて知りました。やっぱり、話を聞きながら教えていただけるのは良いと実感しました。
- ⑦とても参考になることが多かったです。中学校の特別支援教育の難しさに日々頭を悩ませているので、自分ももっとやれることをしなければと反省しました。私も通級担当者ですが、本来の通級業務が滞るほど、特別支援教育コーディネーターとしての仕事が多いですが、自分のできることから始めてみようと思います。ありがとうございました。
- ⑧言語通級では、まずは構音の問題から指導をスタートするのが自分の中で当たり前になっていましたが、子どもの本当の困難さは何かを実態把握を通して明らかにしていくことが大切だと知りました。個々の児童の実態についての見直しが必要だと感じました。
- ⑨指導に悩む担任にアドバイスをする際、検査結果を根拠に具体的な内容を示す方が耳を傾けてくれることが多いようにちょうど最近感じていたところだったので、お話をお聞きできてよかったです。気づきに応じた支援の方略、担任と連携する際に参考にさせていただきます。
- ⑩特別支援学校の先生から実態把握の校内研修をしていただきたいと思いました。どの学級にも支援が必要な子どもがいる、子どもを見る視点としての研修は職員全員が必要、という切り口で研修を進めることがポイントだとわかりました。

## アイデアや工夫したこと

- ①学習指導要領に示されている特別支援教育の推進と関連させ、前年度のアンケート結果や学校現場の課題を各回のテーマに反映させ、現場の先生方のニーズに応じた研修を設定している。
- ②オンラインによる放課後の 1 時間の研修を設定することで、現場の先生方が参加しやすい形態を取っている。また、講義形式、グループディスカッション等、多様な研修形態を取り入れ、内容の充実を図っている。
- ③年間計画を事前に配布することで、参加者が自身の課題や興味のあるテーマを選択して参加できるようにしている。5 年目の今年度は、受講対象者を全ての教職員に拡大し、上越地域のみならず新潟県内 14 の教育委員会に対し広く周知した。その結果、市の教育支援員研修に位置付ける市町村や校内研修として年間計画に位置付ける学校があった。

## <写真・図など>

本事業はオンラインによる放課後 1 時間の研修であり、参加者は学校長の承認のもと各勤務校から研修に参加している。多くの先生方から年間 10 回の研修に計画的に参加いただいた。ICT 活用が各学校で浸透する中、移動に時間がかからないこと、会場確保や会場準備にコストがかからないことなどにおいても肯定的な評価を得ている。持続可能な学びの場であり、内容は現在各学校が抱える課題に敏感に反応することで、ニーズに応じた研修会となっていると考えられる。

今年度の研修では、令和 2 年度以降本研修を受講してきた教師が研修によって得た学びを活かし自校において、通級による指導と教科等の授業との密接な関連を図る授業改善に取り組んだ実践例を話題提供いただいた。講師が大学教員のみではなく、地域の同僚教師が取り組んだ実践例を聞くことにより、研修参加者の授業改善への主体的な意識を高めることにつながったのではないかと考えられた。また、ブレイクアウトルームを活用し、参加者同士で意見交換を行う場を設定し教員間のつながりをもつきっかけにもなっていた。

